

Neoplasm TAG 進捗報告

国立がん研究センター 西本寛

1) 基本構造

E₁D₂1₃.E₄E₅1₆E₇Pre-Coordination (頭 3 桁 : E₁D₂1₃.)

従来の ICD-10 の構造を継続して、死因統計に資するものとするが、頻度の高い形態による分類を付すことで、より情報粒度を高めることとする。実際には E₄ までを含めると ICD-10 と同等の分類となり、継続性もほぼ確保 (組織型の違いについても大まかに分類される点で ICD-10 よりやや詳細化)

E₁D₂ : 原則部位によって分類
1₃ ; 頻度の高い組織型等で分類

《例》 小腸の腺癌 8E0.

Post-Coordination (末尾 4 桁 : .E₄E₅1₆E₇)

E₄ : 原則部位によって分類
E₅ : 詳細な解剖学的亜部位、あるいは詳細な組織学的分類
1₆ : 腫瘍の進行度 (UICC Stage、治療後の進行度)
E₇ : リンク用コード

※ E₅ と 1₆ については、入れ替わる可能性がある

《例》 空腸の腺癌 (4 桁「.2」: 空腸、5 桁「.0」: 空白、6 桁「3」: UICC StageIII)

8E0.203X ※最終的にコードについては検討中の段階

X Chapter

より詳細な部位や組織型等、付加したい情報については

X Chapter で定義されたコードを上記の 7 桁以外、追加してコード

《例》 空腸の腺癌、手術治療後

8E0.203X X/E40 (E40 は「術後」を示す仮コード)

- コードの長さや全体の整合性の問題があるため、腫瘍部分については上記の構造を採用し、臓器別 TAG の提案のうち、整合性のとれるものは検討する。
- 整合性のとれないものについては、ICD-11 の Multi-Parenting 構造を用いて、臓器別の章で対応してもらう。

2) 全体の分類

以下のように 5 分類され、悪性腫瘍はさらに 3 区分される。

Malignant neoplasms

Malignant neoplasms, stated or presumed to be primary, of specified sites

Malignant neoplasms of haematopoietic and lymphoid tissues

Malignant neoplasms of independent (primary) multiple sites

In situ neoplasms

Benign neoplasms

Neoplasms of uncertain behavior

Neoplasms of unknown behavior

3) その他の検討・合意事項

- 肉腫系の扱いについて

Kaposi 肉腫については、**HIV** との関連もあり、即時性が高く把握される必要がある。
他の肉腫とは別の扱いとする。

- 中皮腫について

中皮腫については解剖学的部位により、分類することで合意された。

- 異所性腫瘍について

異所性の腫瘍については、**Pre-C** ではなく、**Post-C** で表現することで合意された。

- 眼の腫瘍

Retinoblastoma は独立性が高いので、分類を策定して **EYE Disease TAG** に提案する。

- 消化器系腫瘍

食道については軸の統一化へ向けての議論が進行中。

神経内分泌腫瘍については稀であるため、他の腫瘍の中に含ませる予定。

- その他

部位の細分化など、わが国からの提案については、今後検討される予定。

以上、電話会議で継続的に検討が続いており、iCAT 上に反映しつつある。

(現状で iCAT での変更は定義追加に限られているため、WHO 側に個別に要望して
逐次変更している)